

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	3 / 1957 / 24-29
タイトル	青森市のゼフィルス 青森市に於けるゼフィルスの生態概観
著者名	室谷洋司

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 青森市に於けるゼフィルスの生態概観

室谷 洋司

## はじめに

青森市の蝶類生活史の文献は、今まで我々の目に触れなかった、1953年以來筆者は青森市の蝶についてその生活史特に幼虫期食餌確認に留意して来た。ゼフィルスについては、1955年頃から越冬卵を採集し、幼虫を発見する様になったが、周知の様にミドリシジミ亜科の一族ゼフィルスの周年経過はすべて一致し経験によれば卵発見も容易になって来る。これは我が国のゼフィルスの生活史解明に多に役立って来たものであり大よそ1940年代からと思うが、それ以前は卵が葉葉に産付されると言うような今では全く考えられない生態図が、生々にして見掛られた。(場合によっては葉に産付されているものを見る場合もあるが、それはゼフィルスの本能を全く(無視したものと云いよう)

本文は青森市の関係文献を有していない為全て筆者有るいはこの前後を書いた種方彦、佐々木亮治両君による1957年の最新の記録が加えられた。

青森県内でも弘前地方ではゼフィルスについて賢く種詳しく定められている様だが、弘前の阿部東、下山揚切両氏からは青森の予想について貴重な助言を受けた。両氏に対し深く感謝する。(註)1957年11月 筆者が「青森の蝶」を刊行したがゼフィルスについての解説は簡略である。

## Ⅱ. 生活の形式

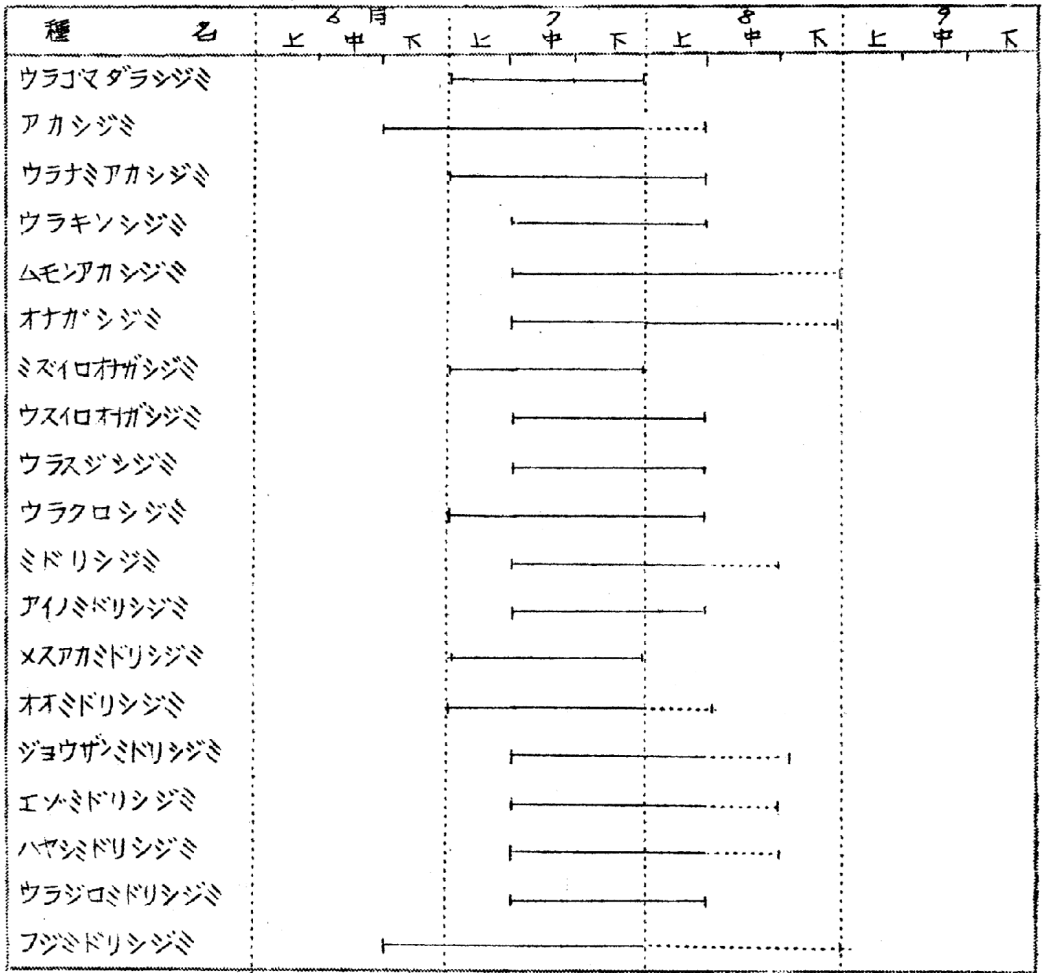
青森市に棲息するゼフィルスは「青森市のゼフィルスの分布」で知る様に17種が記録されている。これ等は全てスナ科、マンサク科、サクラ科、モクセイ科、シラカンバ科、フルミ科の樹木を幼虫期の食餌としているが、野外に於ける筆者の変態観察は部分的であり、卵期、幼虫期、成虫期に限られる。環境は着るしく異なるが、本族を銅首帯内で生活を記録して見ると、オノ図のようになる。ナナカシジミとウラジロシドリについて簡単に記録したものが、他種も大体一致する。

成虫期は6、7、8月であるが、発生後期の母蝶は食樹に産卵する。産卵位置は後述の様種類により一定しており、大まかな種名判定の着眼点となっている。卵は落葉後も枝上にあつて厳寒を逃り、孵化は翌春の萌芽期で、微小幼虫はそのまゝ若芽に侵入し葉のすっかり硬化する初夏には蛹となり羽化する。



種名(食餌)	4月4日	5 5 5 5 5 5	6 6 6 6 6 6	7 7 7 7	L+Pの
	1日28日	1 5 12 15 20 30	1 7 10 15 19 25 30	1 4 10 16	所要日数
オナガシジミ(オニグイ)	E	L L L L L L L	L L L L P P P	P P P A	80日
ウラジロミドリシジミ(カ)	E	E E L L L L	L P P P P P P	P A	53日

表1 飼育による成長経過  
 ウラジロミドリシジミ 自1956.4.8 至1956.7.4  
 オナガシジミ 自1956.3.15 至1956.7.17  
 E=Egg, L=Larva, P=PaPa, A=Adult



成虫の生存期間 ..... は♀に多く見られる突飛な記録に基づく。

表2

3. 成虫発生期と生存期間

高森市は緯度上に位置しているが、セフィラスの発生は一般に初夏であるといえども、関東方面その他の地に較べると、北地としてのおおかに遅れている。分布の所で説明されているが、高森市では普通分布と同様であり、その期間を図表に表わすと、表2図の様である。

4. 食餌植物

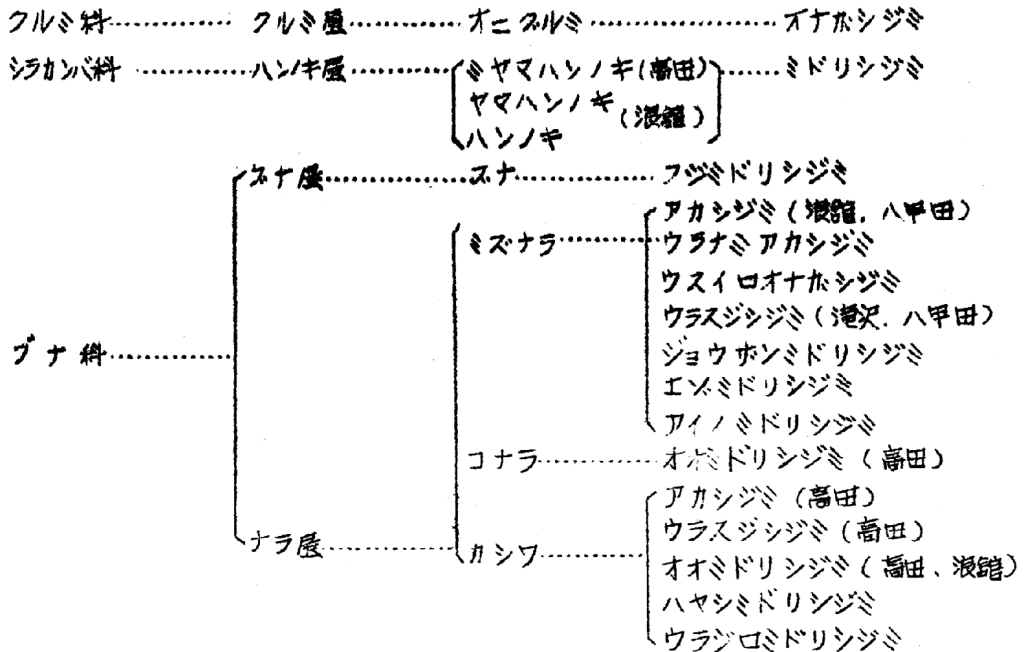
食餌植物の確認には、若干の産卵も観察しているが、多くは越冬卵採集によつて判明するものが多かった。そしてある種の産卵植物が判ると、発生期にその植物に注意して見る。成虫は容易に見え出未、産卵のチャンスを得ることもある。又食餌植物の確認はその生活史についての一端を明らかにするものであると云うことが出来ようが、誤りはいふ人ではないと思うので、本文では以上の様な資料を基にした。

越冬卵採集は1955年から始めて来たが、現在ではムモンアカシジミを残すのみとなつている。

あるノ地奥のセフィルスの相については、環境に影響される。青森市各地のスナ科植物の分布を見ると、浪館付近は非常にシスナラが多く発達しており、他種は少ない。滝沢はシスナラの大木が優勢で、スナがのびやかに侵入している。八甲田山はスナが原始林をなし、5000mまではシスナラが見られる。以上は例えばカシワ、ユナラのオオミドリシジミ、カシワのウラジロミドリシジミ、フナのフジミドリシジミ等の分布を大きく制限しているが、セフィルスの垂直分布にも依るもので、例えばジョウホソミドリシジミ、アキノミドリシジミは、山地平地共にシスナラがあるにも拘らず、八甲田山に限られている。

植物相に支配されるセフィルスの分布は、スナ科の外にマンサク科、モクセイ科の様なものを食餌とするものにも顕著である。青森市の城外であるが、茨城地方の海岸に近い地奥には、山地性のものも多く全国的に有るであるが、ここに棲息するウラキンシジミ、ウラクロシジミも食餌植物があつてこそ見られるものだろう。

表 各種類の食餌植物



マンサク科	.....	マンサク属	.....	マンサク	.....	ウラクロシジミ
イバラ科	.....	サクラ 属	.....	不 明	.....	メスアカミドリシジミ
モクセ4科	.....	トネリコ属	.....	ゴバトネリコ	.....	ウラキシジミ
		イボタ 属	.....	イボタ	.....	ウラゴマタラシジミ

5. 成虫の習性と産卵

セフィロスの産卵位置については越冬卵発見によって観察したが、成虫の習性や産卵動作について簡単に記述する。尚日周活動については、佐々木亮治の「青森県に於けるセフィロスの日周活動」を参照されたい。

1. アカシジミ

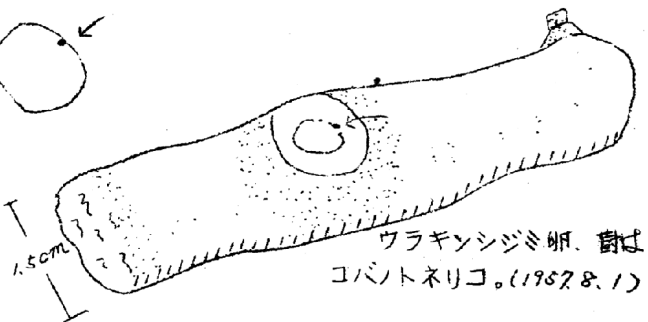
1956年高田で初めて卵を発見、成虫の飛翔は緩慢である。産卵は葉上から枝に歩行し、細枝の分岐處に1〜5個産卵される。浪館のミスナラ林では、1回の産卵数は少ないが、高田の休眠芽の大きいカシワには5個内外が普通である。成虫は産卵すると直ちに付近の葉を居端で集め、卵表を覆う。

2. ウラナミアカシジミ

発生期は7月上旬からで前種の方が約1旬早い。習性は全く等しい。卵は1957年浪館で佐々木亮治、棟方堯が採集、飼育に成功する。野外に於ける幼虫、蛹の発見はむづかしい。卵の形態は前種に較べり、すかに扁平で、中央のくぼみが顕著であるから浪館の両種混棲地でも両者の区別は容易である。

3. ウラキシジミ

飛翔は青緑に輝く種類より緩慢。夕方活動するが飛翔は樹に沿って特徴があり、裏面が菊に輝く時もある。(日周活動に詳述している。) 1957年八甲田で以前の記録/頭を逆かにしのご30数頭の個体が得られたが、同年8月/日筆者は弘前の



阿部東長のゴバトネリコと云う予想に基づき、遂に卵発見に成功した。食樹ゴバトネリコは八甲田に多いが、産卵は、17例に依ると1個宛が圧倒的で2個並べたものが1組あつた。位置は樹の葉に細枝の折れた窪や、樹皮の裂目に産卵される。発見は極めて困難である。筆者は成虫発生期の8月/日、辛いて1個を得たほとんど/日を費したが、棟方堯は7月の末、樹系の/付に基づき八甲田の同地を調査した所、17個の卵採集に成功して、青森に於ける本種の食樹、産卵位置は17例に依って、層理葉になつたものと認む。

4. ウラゴマタラシジミ

高田で山地のイボタに成虫が得られ、若干の卵を得たことがあつたが、その後成虫と卵も見られない。産卵は細枝にあつた。

5 ムモンアカシジミ

発生期は遅く、8月にも見られる。産付物体、食餌は不明、青森市の手掛りのない唯一の種類である。

6. オナカシジミ

1956年高田で卵を発見。1957年滝沢でも採集するなめらかなオニスルミの皮上に1〜3個宛産付するが、8個の卵壘を得たこともある。

7. ミスイロオナカシジミ

1957年八甲田、浪館で卵を採集する。休眠芽付近や細枝の分岐處に産卵されている。形態は次種に比較して着るしく扁平である。

8. ウスイロオナカシジミ

1957年の八甲田調査でウラキシジミと共に一躍主目的となった。飛羽は余り活発でない。卵は同じく調査中に樹皮の間から1個発見された。

9. ウラスシジミ

1956年高田でカシワの休眠芽から一挙に数卵を得る。飛羽は大方樹木を縫って梢近くを運ぶ。1957年滝沢でミズナラから棟方、佐々木が数卵発見する。ミズナラでは1〜3個が普通である。

10. ウラクロシジミ

飛羽は樹に沿って行われる。産卵はマンサクの芽に1個宛産付される。

11. フジミドリシジミ

1957年5月5日滝沢でスナノ継枝から1個採集する。同じ地帯で1957年10月数個を採集する。出現が早い。八甲田山で9月に♀を見た事もある。

12. オオミドリシジミ

♂の飛羽は敏捷。カシワでは枝の所々に産卵され、コナラからも分岐處に産まれたものを得た。

13. ジョウハンミドリシジミ

ミズナラの休眠芽に1個宛産卵される。

14. エンミドリシジミ

棟方處に依れば滝沢ではミズナラを食すると云う。

15. ハヤシミドリシジミ

高田、浪館のカシワ林に多く葉上に飛来した母蝶は板を歩み、枝の分岐處に多く産卵する。

16. ウラジロミドリシジミ

高田のカシワ林に多く、枝の各所に1〜3個宛産卵される。

17. ミドリシジミ

1957年8月6、7両日、浪館、高田で卵を採集する。高田ではヤマハンノキ、浪館ではヤマハンノキ、ハンノキ。細枝には1個太枝には数個産する。未だ数10卵の卵壘を見たことがない。

18. アイノミドリシジミ

1957年八甲田山で採集する。ミスナラの休眠芽にノミ 2匹宛産付される。展翅は活発。

19. ヌスアカミドリシジミ

棟方堯に依れば滝沢では本種が多くヤマハワラ(種名不明)を食すと云う。筆者は未だ卵を発見したことはない。

6. あとがき

青森市のセフィルスについて、その生活史を概観すると以上の様であるが、観察資料の不足からまだ不十分と思う。ムモンアカシジミについては今後全力を尽して早期採卵確認に努めなければならぬ。ヌスアカミドリシジミ、エノミドリシジミについても確実とは云えない。

しかし数年後には大部分の飼育観察は完了するものと思う。セフィルスの飼育は身近に幼虫食餌があれば比較的容易であるから青森市の生活史について将来一層確実になることを望んでいる。ウラキシジミについては1958年の課題にする。

7. 参考文献

横山光夫・原色日本蝶類図鑑

井上正亮・蝶の生態写真集、新昆虫 Vol. 5

林 慶・No. 9 1952

宮内紀雄・セフィルス生態写真集、新昆虫 Vol. 9

宮内和雄・No. 9 1956

林 慶・

江崎謙三・日本の蝶、新昆虫 Vol. 4 No. 9, 1951

白水 隆・

林 慶・日本蝶類図鑑

望谷洋司・青森の蝶

( 筆者は三年 )



## 正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
24	5	誤字(餌のつくりが異なる)	食餌
24	11	「(」	「(」を削除
24	14	賢く程詳しく定め	詳しく究め
24	16	刑行	刊行
24	21	誤字(餌のつくりが異なる)	食餌
26	4	誤字(餌のつくりが異なる)	食餌
26	10	シズナラ	ミズナラ
26	12	ユナラ	コナラ
26	13	フナ	ブナ
26	14	アクノミドリシジミ	アイノミドリシジミ
27	30	(復刻版の横線取消部分)	11月17日にも同じような位置から発見し、多くは1個ずつで2個並んだのが1例あった。以上から青森に於ける食樹はコバトネリコであることが一層確実に思ったと思う。